

## 第40回親潮北上外洋ヨットレース、嵯峨Vの航跡

2007年8月16日

嵯峨Vオーナー 渡辺孝志

例年の様に洞掛のブイからのスタートだが今年は1時間早めての8月11日（土）9時に微風の中参加6艇一斉にスタートした。まずカヤ、エスポアールが上を嵯峨、ベシュベル、アセーナ、銀河が少し下のスタートでしばし横一線。益々風が落ち軽量艇のベシュが嵯峨の下からするすると抜け出しカヤと共に頭を出して先頭集団。エスポアールも上でいい走りをしている。

スタートから田代の大謀のブイの中間過ぎでは嵯峨は少し落とされぎみ、エスポアール、カヤ、が上で先頭、銀河は田代の下を回るようだ。

大謀のブイはエスポが先頭、カヤが続く。嵯峨は下側1タックでエスポには約半マイルの差、網地、田代水道はそこそこの風、ぎり上りではないようだ。

エスポアール、カヤ、が先行で水道に入り大分遅れて嵯峨、田代の下回りの銀河は後続のベシュベル、アセーナとほぼ同じ位置で水道入り。

各艇、鮎川の前をタック、タックでそこそこの風をつかみ黒崎に向かう。エスポが先頭で次いでカヤが早くも金華水道に入る。嵯峨は大分遅れの黒崎周りだが先行2艇は半島よりのブランケに捕まっている様だ。嵯峨は躊躇することなく金華よりにコース、風は右からのアビーム、金華を抜ければスピンかとの期待。

後ろを振り返れば後続3艇も黒崎のブランケの中、エスポアールも半島寄り。金華水道を抜ける少し前に嵯峨もエスポもスピンラン。嵯峨が少し頭を出したか、エスポアールも半島寄りでもいい走りをしている。嵯峨はプロパーコースをとり平島の左を目指す。

後続艇も全艇スピンで半島寄りから銀河、アセーナ、カヤ、でベシュベルは少し沖出し傾向。江ノ島の少し前あたりから風が落ちスピンランも難儀。笠貝あたりまではエスポも陸寄りだが嵯峨とは横一線、この辺でロールコールが終わっての16時45分。エスポアールはどんどん陸寄り。嵯峨は岸から2〜3M離してのプロパーコースをキープ。

この辺からエスポは少しずつ遅れ気味。その少し沖気味をカヤがエスポを抜いて来るが嵯峨との差は少しずつ大きくなり大須方向に船影も小さくなる。微風の中嵯峨はスピンランで志津川沖、サンセットも過ぎて薄明かり

の中嗟峨の遙か後方に微かなスピンの船影、トリコロール、アセーナだ。カヤも遙か陸より後方、タックを入れないと歌津沖、小泉湾沖の網をかわせなさそう。19時、ロールコール、この船況をアマ無線でコミッテーターに報告。新月の真っ暗闇だが満天の星空、天の川も久しぶりにあざやか。時折流れ星、夜光虫も鮮やかだ。

嗟峨は依然として微風の中のスピンラン、プロパーコースだが上りきれずに数回のジャイブ、もう歌津沖だが少しもやっけていて歌津の灯台の他は大島灯台も岩井埼灯台もまた気仙沼の明かりも見えない。それにしても大島灯台の霧笛も聞こえない。後で菅原元市長さんにお聞きしたら霧笛は故障中との事。

この辺からは嗟峨の一人旅、視界のこともありレース艇は見えない。小泉湾の大謀網の2個のライトの外を依然としてスピンランのぎり登りでクリアー。

気仙沼の入港ブイの少し前で煌々とライトをつけてサンマ船が2隻テスト中でその左をNo1ブイのグリーンライトを目指す。

風はアビームだが超微風、スピンもはらまずだらーんとしてここからフィニッシュまで約2時間半。ここからが正念場、クルーもう一度気合を入れてとハッパ。やがてグリーンの気仙沼の入港ブイ確認、ここで金華からのスピンを下ろしジェノアに、大島、岩井埼の灯台確認、風は依然微風の中12時過ぎにフィニッシュ。

今年も風なしに悩まされたが陸寄りも沖寄りもより風なしでプロパーコースの嗟峨と最後まで真後ろに見えていたアセーナが勝を制した様だ。この事に関しては後日行われるGPSでの検証も楽しみである。

外洋レースは運が付き物、来年の41回親潮レースの各艇の健闘を祈ります。赤石担当理事また餅、朝倉、高橋の各レース委員の皆様ご苦労様でした。

また長年に亘りご後援を頂いております気仙沼市長様を始め市当局の皆様、気仙沼観光協会会長の菅原様に深甚なるお礼を申し上げます。

帰りの回航は先に帰ったアセーナを除き12日の夜、全艇金華港に一同に会し13日に無事母港に帰港、MORCの暑い夏は終了した。

スタート時に暮れのカレンダー用に全艇と松島からの伴走艇の写真撮影があり楽しみです。(佐々木理事、吉田理事)